

# Platys

[プラティス]

KDU COMMUNICATION MAGAZINE

Vol.02  
2021.6

広報誌タイトル  
「Platys」の由来

医聖ヒポクラテスは、紀元前にギリシャのコス島のプラタナス(スズカケノキ)の木陰で弟子たちに医学・医術、医の倫理を説いたといわれ、本学にはプラタナスの木とコス島から運んだ巨石があります。プラタナスの語源はギリシャ語の「platys(広い)」であり、大きな葉や広がる枝に由来します。学生たちの豊かな成長と、九州歯科大学の繁栄を願い、「Platys」と命名しました。

特集

【病院長×学生 対談】

## 地域医療を支える 大学病院が担う臨床と教育

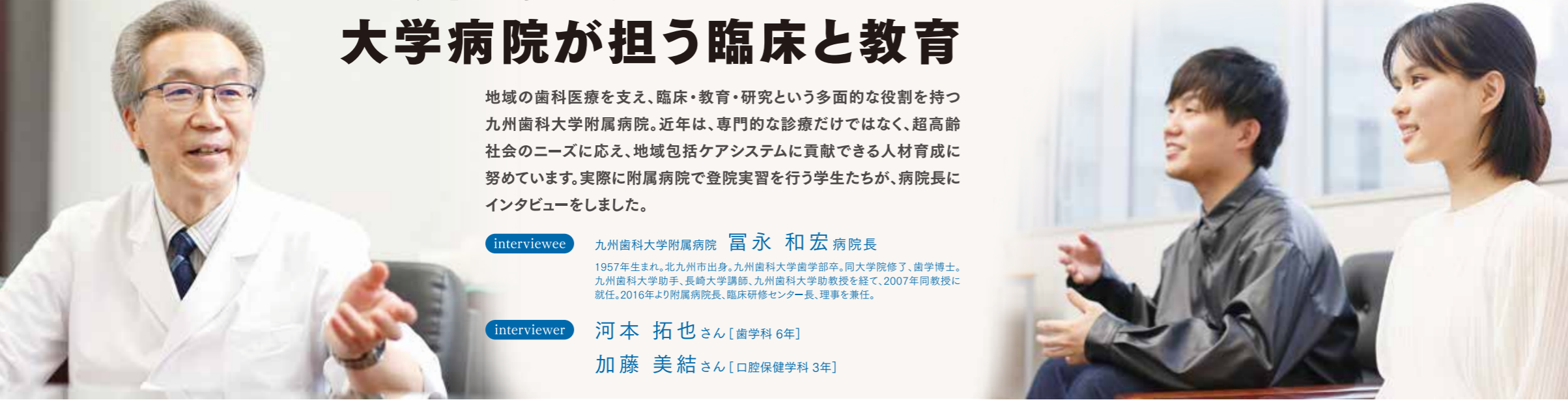


# 地域医療を支える 大学病院が担う臨床と教育

地域の歯科医療を支え、臨床・教育・研究という多面的な役割を持つ九州歯科大学附属病院。近年は、専門的な診療だけでなく、超高齢社会のニーズに応え、地域包括ケアシステムに貢献できる人材育成に努めています。実際に附属病院で登院実習を行う学生たちが、病院長にインタビューをしました。

**interviewee** 九州歯科大学附属病院 富永 和宏 病院長  
1957年生まれ。北九州市出身。九州歯科大学歯学部卒。同大学院修了、歯学博士。九州歯科大学助手、長崎大学講師、九州歯科大学助教授を経て、2007年同教授に就任。2016年より附属病院長、臨床研修センター長、理事を兼任。

**interviewer** 河本 拓也 さん [歯学科 6年]  
加藤 美結 さん [口腔保健学科 3年]



## 高度な治療から地域包括ケアシステムまで、歯科総合病院の使命を果たす。

**Q** 地域の拠点病院として、九州歯科大学附属病院の役割を教えてください。(河本)

富永： 大学病院としての大きな役割の一つは、より専門的な対応が必要な患者さんの治療を担うことです。患者さんは市内だけではなく、山口県や大分県の一部など県外からも来院されています。口腔外科では、口腔がんの治療も担っています。

**Q** 教育病院としての側面もあると思いますが、どのように対応しているのでしょうか？(加藤)

富永： 大学病院は診療や研究を行うことに加え、“高度な専門性を持った歯科医療人の育成”という使命も持っています。学生の皆さんは専門性の高い歯科診療について学修するだけでなく、歯科医療人が高頻度に遭遇する疾患の治療に参加し、実践して経験を積む必要があります。そのため、総合歯科診療の充実を図り、地域に根差して幅広く対応できるように心がけています。本院には長い歴史があることから近隣の方々の信頼も厚く、多くの患者さんが来院してくださっています。

**Q** 総合病院の中にある歯科と歯科病院では、診療面でどんな違いがありますか？(河本)

富永： 総合病院の歯科では、医科歯科全体の中の診療科の

一つとして、少ない人数であらゆる治療に対応することが求められますが、歯科病院の場合はそれぞれ専門性の高いスタッフが集まって診療にあたることから、より充実した歯科診療が期待できます。

**Q** 超高齢社会となった今、健康寿命を延ばすために介護医療や予防医療が重要視されていますが、歯科医療機関はどんな変化がありましたか？(加藤)

富永： 団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、地域包括ケアシステムの構築が進められています。介護が必要な高齢者をサポートするために、医療・介護・予防・生活支援・住まいを一体的に提供できるケア体制が整備されています。こうした中で、歯科医療機関の役割も大きく変化しており、地域との連携、訪問歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションなど、超高齢社会に応じた新たな取り組みが行われています。

**Q** 先ほどの質問から、地域包括ケアシステムの中で、九州歯科大学附属病院が担う役割を教えてください。(河本)

富永： 地域包括ケアシステムへの貢献で重要なのは、歯科の総合力と、全身を評価できる多職種連携です。当院では地域包括歯科医療センターを設置し、訪問歯科診療などを通じて地域と連携した歯科医療を行っています。

総合歯科診療には小児歯科の専門医にも入ってもらい、子どもから高齢者まであらゆるライフステージの患者さんに対応できる歯科医療人の育成に努めています。

**Q** 学内で黄色の往診車を見かけました。どのように活用されているのですか？(河本)

富永： 訪問歯科診療のための車です。患者さんの診療のために歯科医師と歯科衛生士が出向きます。私たちは教育も担っているため、学生さんも一緒に行けるように7人乗りの車を導入しています。

**Q** 学部教育では、全身と口腔の関わりについて多く勉強してきました。病院ではこれらの知識は、どのような面で重要と考えていますか？(加藤)

富永： 糖尿病や動脈硬化と口腔細菌の関係など、全身の健康が口の健康と深く関わっていることが明らかになっています。そのような情報を患者さんと共有しつつ、治療やケアに取り組むことが重要です。

また、近年は患者さんの多くが高齢者で、多数の病気をもち、さまざまな薬を飲んでいるため、全身の病気や薬の副作用について、知識をしっかりと持って対応することが大切です。

さらに、手術の前後に医科と連携して口腔ケアを行うことによって手術後の感染予防や治療結果の向上につながり、入院期間を短くできる成果が出ています。このように全身と口腔の関わりについての知識は今後ますます重要になってきます。

### 地域包括歯科医療センター

地域包括歯科医療センター(DEMCAB)では、「飲むこと」や「食べること」が難しくなった「摂食嚥下\*1障害」の評価診断、摂食嚥下リハビリテーションや、全身的な機能低下の前兆とされる「オーラルフレイル\*2」、「口腔機能低下症」への対応を行っています。

また、病気や加齢などの影響から在宅や施設、病院などで療養中であり、一般歯科診療所に通えなくなった要介護高齢者などを対象とした歯科訪問診療を担当しています。



\*1 嚥下とは…食物を口腔から胃まで運ぶ運動  
\*2 オーラルフレイルとは…加齢による衰えのひとつで、食物を噛んだり飲み込んだりする機能が低下したり、滑舌が悪くなったりするなど“口”に関連する機能が低下しつつある状態のこと

### 往診車

九州歯科大学附属病院では、2019年1月から訪問車が導入されました。病気などの影響により一般歯科診療所に通院が困難となった患者さんに対して、在宅や施設、病院へ歯科衛生士と共に伺って歯科的治療や口腔のケアなどの訪問歯科診療を行っています。

※訪問歯科診療は当院から半径16km以内が訪問可能な範囲となります。



訪問歯科診療車

### 本学附属病院の周術期口腔管理

歯科医療による口腔細菌減少が手術の合併症減少や入院期間短縮をもたらすと報告されています。心臓弁置換術後の感染性心内膜炎予防、人工呼吸器関連肺炎減少などで周術期の歯科医療は有効といわれています。

このような背景から歯科医療従事者には積極的な周術期口腔管理が期待されています。

本学附属病院においてもいち早く周術期口腔管理センターを設置し、地域住民の健康長寿に貢献すべく活動を行っています。



院長 × 学生 対談

# 地域医療を支える 大学病院が担う臨床と教育



## 多職種と連携し、全身を評価できる歯科医療人を育成する。

**Q** 歯学科では5、6年次は大学附属病院と外部の医科病院で実習をします。どのような点に着目して学ぶとよいでしょうか？（河本）

富永： 九州歯科大学の特徴は、外部の医科病院と連携しやすいことです。外部の病院に直接行くということは、本当の現場に入り込んで臨床の経験ができます。

連携している病院には急性期と慢性期の病棟があり、患者さんに対する歯科医療人の関わり方もそれぞれ変わってきます。その違いをしっかりと理解して、学んでください。

**Q** 口腔保健学科では3年次は大学附属病院で、4年次は外部の病院や歯科診療所で実習をさせていただきます。どのような点に着目して実習に臨めばよいか、アドバイスををお願いします。（加藤）

富永： 大学附属病院は総合的な面を持ちながら、種々の専門

診療科がありますので、歯科医療の専門性についてより深く学ぶことができます。一方、歯科診療所では、地元で根差した診療の現場を経験できます。教育を担当して下さる診療所は、地域が求めるニーズの違いにより、さまざまなアプローチ法を学ぶことに意味があります。それぞれの場で、幅広い取り組み方を経験することが重要だと思います。

**Q** 卒業後の臨床研修が令和4年から新制度となり、臨床研修制度と学部教育がシームレスになると聞きましたが、具体的にはどんなことが行われるのでしょうか？（河本）

富永： 歯科医師臨床研修制度は15年前から必修化されていますが、教育方法は見直され続けています。

今回の制度改革は、今求められている研修の質と量をきちんと担保していこうという取り組みです。

実際の医療現場では、使用する材料や作業効率などに独自の工夫をして診療が行われています。

臨床は日々工夫があり、変化していくものですが、初学者にとっては、さまざまな工夫の産物から経験をスタートさせるのはわかりにくいですよね。当院の卒前、卒直後研修では座学で学んだ通りに診療を行い、九州歯科大学のスタンダードをきちんと実行できるところまで育て、社会に出てもらいます。座学と臨床実習や臨床研修を連動していくシームレスな教育がすでにスタートしています。

**Q** 実習で私たちが指導して下さるのは、どんな先生たちですか？（加藤）

富永： これからは地域包括ケアシステムに貢献するために、総合的な診療ができる力をつけていく必要があります。学

生の教育は主に「総合診療科」と「口腔保健科」の中堅から若手の先生が担当します。ベテランの先生は専門性の高い部分の指導を多く担い、全般的な指導は若手が担うスタイルをとっています。

**Q** 全身を評価できることは、臨床でどのように役立ちますか？（河本）

富永： 前述したように、持病を抱える高齢の患者さんの歯科治療をするうえで、全身の病気に対する理解は不可欠です。また、歯科の病気が全身に与える影響を患者さんに説明し、口腔ケアが全身の健康を守ることを理解してもらう働きかけも大切です。糖尿病、心筋梗塞、脳梗塞などにも関わる歯科の感染症をコントロールしていくことが、これからの歯科医療人の大事な役割です。

**Q** 私たち実習生に対して、病院長からアドバイスと激励をお願いします。（加藤）

富永： 大学では学生さんが中心ですが、病院の中心は患者さんです。そのことを意識し、患者さんにどれだけうまく溶け込めるかが大事です。そのためには、学んだことを十分に理解し、自分のものにしてきてもらわないといけません。

実臨床では、数多くの患者さんを診て経験を積むことが大事です。そのためには患者さんの協力が絶対に必要です。理論だけでは解決できない場面にも遭遇します。一生懸命学ぶ姿勢を見せたら、患者さんは喜んで協力してくれますから、あなた方が得られるものはさらに大きくなります。患者さんから信頼されるような歯学生であることが、一番重要です。実習を通して着実にレベルアップできるよう頑張ってください。

### 卒前臨床教育

卒業前の臨床教育では、患者さんに協力していただき、実際に実習生が診療を行う診療参加型臨床実習をしています。歯学科は5年次から6年次にかけて、口腔保健学科は3年次から4年次にかけて行います。約1年間、指導教員と一緒にチームの一員として担当患者さんの治療を行い、歯科医師あるいは歯科衛生士として、卒業時までに必要な基本的臨床能力を習得します。



### 卒後臨床研修教育

臨床研修プログラムは研修の質と量の担保に重きを置いています。研修歯科医は、担当患者さんの治療計画の立案から治療を厳格なプロトコルに基づき修得します。実際に患者さんを担当するにふさわしい態度と技能が備わっているか、医療面接スキルアップ研修やシミュレーターを用いた技能チェックで評価した上で、患者さんに対応してもらいます。また、全身評価ができる歯科医療人の育成に重きを置いている本学としては、患者さんの医科かかりつけ医との連携を重視した指導を行い、地域包括ケアシステムの中で活躍できる歯科医師の育成に努めています。



シミュレーターを用いた技能チェックの様子

### リカレント教育 (DEMCOP)

超高齢社会であるわが国では、重篤な全身疾患や摂食機能障害を持つ歯科の患者さんが増えています。また、医学の進歩により、重篤な先天性疾患の生命予後が改善し、歯科を受診するようになってきました。このような患者さんの安全な歯科医療を行うためには、高度な医学的・歯学的知識が必要です。また、摂食嚥下障害においても、歯科医療従事者の積極的な介入が求められています。しかし、過去の歯学教育はどちらも十分ではありませんでした。そこで、このような社会的ニーズを高いレベルで満たせる専門的な歯科医療人を育成するために、DEMCOPでは臨床現場で活躍されている歯科医療人を対象に、リカレント教育を行っています。





Topics - 1

大学行事のお知らせ

世界中、日本国内でも昨年から続く新型コロナ禍のなかで、迎えた令和3年春。学生たちにとって節目となる重要な3つの大学行事。安心・安全に滞りなく終えるための徹底した感染予防対策、式次第の工夫等を講じ、無事に開催することができました。それぞれの式典を終え、学生たちは次のステージに向け、新たな決意を胸に刻み、踏み出しました。

令和3年 3月12日(金)

令和2年度 第69回卒業式を挙行了しました

令和2年度は、歯学科89名、口腔保健学科24名、合計113名が新たな門出を迎えました。今年の卒業式は新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、3密(密閉、密集、密接)を回避し、規模を縮小して執り行いました。

卒業証書・学位記は、岡田祥弘さん(歯学科)と山口瑠奈さん(口腔保健学科)の二人が代表し、西原達次学長から授与されました。

歯学科の鈴木健弘さんの卒業生宣誓に続き、西原学長が卒業生に向けて式辞を述べました。本学で培った歯科医療に関する知識・技術・態度を基盤に、社会で成功していくことを願って、旅立ちを祝う力強い言葉を贈りました。

また、ご来賓として出席された大曲昭恵福岡県副知事、吉松源昭福岡県議会議長からご祝辞をいただき、在学生を代表して加藤創さん(歯学科5年生)が送辞を述べました。

最後に、卒業生を代表して、山口真人さん(歯学科)、吉武詩織さん(口腔保健学科)の二人が、周りの方々への感謝と「一医療人として、人々の健康の一助となれるよう今後も精進していく」という決意を述べました。

学長式辞(抜粋)

大学が提唱しているThink globally, act locally(世界規模で考え、足元から行動せよ)というGlocalな精神をもって、歯科医療人としての第一歩を力強く踏み出すことを強く望みます。

卒業生諸君に、世界的に著名な経営思想家P.F.ドラッカーの言葉を紹介します。「効果的なリーダーシップの基礎とは、組織の使命を考え抜き、それを目に見える形で明確に提議し確立することである。有能なリーダーとは、目標を決め、優先順位を決め、基準を定め、それを維持する者である」。

歯科医療におけるニューリーダーとして歯科界を牽引し、社会に貢献する歯科医療人となることを切に願い、私からの式辞と致します。



①卒業式の様子  
②卒業証書・学位記を受け取る 歯学科代表 岡田 祥弘さん  
③卒業証書・学位記を受け取る 口腔保健学科代表 山口 瑠奈さん  
④卒業生謝辞代表 歯学科 山口 真人さん  
口腔保健学科 吉武 詩織さん



令和3年 4月5日(月)

令和3年度 第73回大学・第56回大学院の入学式を挙行了しました

令和3年度は、歯学部歯学科95名、口腔保健学科25名、大学院22名が入学しました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から規模と時間を縮小し、入場時の検温とアルコール消毒、会場の換気等の対策を実施し、新入生のみでの参加と致しました。

西原学長の式辞では、新入生への歓迎の思い、本学の基本理念と教育目標などを伝え、歯科医療人としての成長を期待する言葉を贈りました。

続いて、大曲昭恵福岡県知事職務代理者の代理として出席された福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局の今泉局長、吉松源昭福岡県議会議長から祝辞をいただきました。最後に、学部入学生を代表して、森陸翔さん(歯学科)、野村依央さん(口腔保健学科)、大学院入学生を代表して阿比留衣祝さん(顎顔面外科学)が、「学則を堅く守り、日々精進します」と宣誓しました。

学長式辞(抜粋)

自らを律した大学生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に日々の学修に励んでください。

新入生の皆さんに、科学者アインシュタインの名言を紹介し、「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望を持つ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである」。

学問に対して常に真摯に、そして、生涯学習を通じて実学を身につけ、患者本位の知識・技術・態度を備えた歯科医療人となるまで、夢に向かって前向きに取り組むことを心から念願して、私からの式辞と致します。



①入学式の様子  
②式辞を述べられる 西原学長  
③学部入学生代表 歯学科 森 陸翔さん、  
口腔保健学科 野村 依央さん  
④大学院入学生代表 顎顔面外科学 阿比留 衣祝さん

令和3年 4月6日(火)

令和3年度 登院式を挙行了しました

九州歯科大学講堂で、歯学科5年生83名と口腔保健学科3年生26名の登院式を挙行了しました。西原学長による挨拶の後、富永附属病院院長が訓辞を述べました。

学生を代表して、小野日向子さん(歯学科)、伊東璃玖さん(口腔保健学科)が宣誓を行い、臨床実習に向けて、社会貢献や人格の形成、技術の向上を図ることを誓いました。



訓辞を述べられる富永附属病院院長



学生を代表して宣誓する 歯学科 小野 日向子さん  
口腔保健学科 伊東 璃玖さん





Topics -2

大学関連情報

令和2年 12月17日(木) 高校別のキャンパス訪問を実施しました

福岡県立小倉高等学校の生徒さん45名を本学へお招きし、高校別のキャンパス訪問を実施しました。

このキャンパス訪問は、入試広報活動の一環として、大学の雰囲気を感じること、進路を考える際の参考としてもらうことを目的として始めたもので、今回は附属病院・大学の施設見学、歯科矯正学や生理学の実習見学、模擬講義などを実施しました。

コロナ禍のため、時間や場所が制限された状況でしたが、参加した高校生からは「歯科と他の職種との関連がすごく分かりやすかった」「多くのことを知れて、新たな選択肢が増えたように思う」などの感想が寄せられ、好評をいただきました。福岡県立小倉高等学校の皆様ありがとうございました。

高校別のキャンパス訪問について、ご興味がありましたらぜひご連絡ください。



小倉高校の生徒さんに本大学の雰囲気等を説明する木尾副学長  
小倉高校出身の学生や教員と談笑する小倉高校の生徒の皆さん

令和3年 5月31日(月) 台湾の中山医学大学と学術交流協定を締結しました

令和3年5月31日(月)に台湾の中山医学大学と本学との間で学術交流協定の調印式が行われました。

今回は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による影響で、Zoomを用いたオンラインでの調印式が行われ、本学からは西原達次学長、久藤元副理事長、庄野庸雄客員教授、角館直樹国際連携推進室長が出席し、中山医学大学からは黃建寧学長、張育超歯学部長、陳俊呈教授をはじめとする大学関係者が参加されました。あわせて、台北駐福岡経済文化辦事処の陳忠正処長も本調印式に参加されました。

今後はこの協定をもとに、学生・教員の交流などの教育活動および研究活動において連携を図り、国際交流の成果を歯学教育の充実につなげてまいります。



中山医学大学の黄学長をはじめ関係者の皆さま  
左から庄野客員教授、陳台北駐福岡経済文化辦事処長、西原学長、久藤副理事長

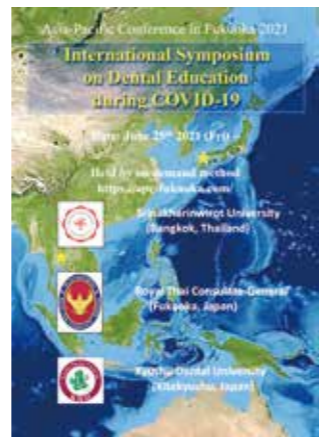
令和3年 6月25日(金) 第8回アジア太平洋国際カンファレンス2021開催

令和3年6月25日(金)にアジア太平洋国際カンファレンス2021をオンデマンド形式で開催します。今年度の国際シンポジウムは、「COVID-19時代の歯学教育」と題して、タイと九州歯科大学から2名の講演者を迎え、講演していただきます。またタイのシーナカリンウィロート大学から留学し、本学大学院を修了されたお二人の先生から「九州歯科大学での大学院の思い出」について講演いただきます。

基調講演として「タイ国のCOVID-19感染急拡大下における歯学教育の革新」をDr. Nathawut Kaewsuthaシーナカリンウィロート大学歯学部長に、「日本のCOVID-19感染急拡大下における歯学教育の革新」を栗野秀慈九州歯科大学歯学部長が講演されます。

本学の学部・大学院学生とともに、本学で大学院生活を送っているタイからの留学生も参加することにより、COVID-19禍を乗り越えてGlobal dental educationを中心に実りある意見交換ができることを期待しています。

第8回アジア太平洋国際カンファレンス開催ポスター



Close-up

大学関連情報

九州歯科大学におきましては、学生として模範とするに足る者を学長賞として表彰しております。表彰は、右記に該当する学生等に対して行うものとしております。

- ① 学業成績が特に優秀な学生
- ② 課外活動において特に優秀な成績を修めた学生個人や学生を構成員とする団体
- ③ ボランティア活動等の社会活動の功績により、表彰に価すると認められる学生やサークル等グループ

令和2年度卒業生2名が、第17回学長賞受賞の喜びを語る。



第17回学長賞  
6年間のGPA\*が1位

第69期生  
九州歯科大学 歯学部歯学科  
岡田 祥弘さん

現在医療法人社団アップル歯科クリニックに勤務



第17回学長賞  
4年間のGPA\*が1位

第8期生  
九州歯科大学 歯学部口腔保健学科  
山口 瑠奈さん

現在九州歯科大学大学院歯学研究科口腔保健学専攻

学長賞を頂けたことは至極光栄に思います。在学中もこの賞を3度も頂くことができ、とても良い思い出となっております。

歯学科は一般の大学とは違って卒業するまでに6年間が必要ですが、この6年間で学修する内容は非常に多岐に渡り、また一つ一つの密度が濃いことが特徴です。それに加えて近頃の歯科医師国家試験は難化の一途を辿っているため、国家試験対策の勉強も頑張らなくてはなりません。ですが私は、九州歯科大学にいる沢山の教育熱心な先生方が親身に指導してくれて、また志高い学友にも恵まれて、非常に充実した6年間を過ごすことができました。

私の今後の目標は、ひたすらに治療技術の向上と、口腔全体を診て患者さん一人一人に合った治療計画を提案できるようにスキルアップしていくことです。歯科医師として一生懸命生きていくつもりです。あとは世界一周旅行もしてみたいですね。

今回、学長賞という名誉ある賞をいただき、大変嬉しく思います。入学以来、勉学や実習等に懸命に励んで参りましたが、このような形で評価していただけたことは私にとって、とても自信につながり、今まで頑張ってきたよかったと思える貴重な経験となりました。また、この賞をいただけたのは決して私だけの力ではなく、今まで熱心に御指導くださった先生方、共に過ごした大切な友人、優しい先輩方、家族など多くの方々を支えていただいたおかげだと思っています。心より感謝申し上げます。今後は九州歯科大学大学院生として、さらに勉学や臨床、研究等に励み、将来は九州歯科大学で研究者、教員になることを目標に努力していきたいと考えております。この度は誠に有難うございました。

令和2年度学長賞受賞在学生(第18回)

① 学業成績が特に優秀な学生

[歯学科]

(学年は令和2年度の学年)

氏名	学年	選考理由
阿南 友紀	4年	3年次、4年次のGPA*が1位
ホサイン ラキン	2年	1年次、2年次のGPA*が1位

[口腔保健学科]

(学年は令和2年度の学年)

氏名	学年	選考理由
加藤 美結	2年	1年次、2年次のGPA*が1位

\*GPA(Grade Point Average)とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のことを指します。



左からホサインさん、阿南さん、西原学長、加藤さん



大学からのお知らせ

令和2年度に退職を迎えた教授からのメッセージ

闘病体験を通じて感じたこと

約5年半前、くも膜下出血を発症して、緊急手術と約6ヶ月の入院生活とリハビリを体験した。幸いにも、麻痺や後遺症はなく、もとの職場に復帰した。同じ年代の死亡率は約7割で、生き残っても90%は麻痺や障害が残るとされる。すなわち、麻痺や障害がなく、復帰できるのは3%に過ぎないことになる。

私は、緊急手術の翌日から、五苓散(ごれいさん)と桂枝加朮湯(けいしかじゅつとう)という漢方薬2種類を服用していた。正確には、経管栄

養チューブに入れてもらっていた。これらの漢方薬は、脳梗塞や脳出血に引き続いて生じる脳浮腫と神経伝達障害を予防して、麻痺や障害を極限まで少なくすることに役立つとされていた。これらの情報を医局の中で共有していたことから、私が倒れた際に、医局員が主治医に依頼して服用できるようにしてくれた。

今回の闘病体験で、「新しい情報は自分だけでなく、共有することが重要だ」と心から実感した。関わってくれた医局員に感謝したい。



柿木 保明

九州歯科大学  
歯学部歯学科生体機能学講座  
老年障害者歯科学分野 教授

退職に寄せて 口腔保健学科の歩みとともに

令和3年3月31日を以て、九州歯科大学を定年退職しました。平成20年1月1日から口腔保健学科の教員として勤務し、学部学生のみならず大学院博士課程の学生も社会に送り出し、定年を迎えました。口腔保健学科の成長とともに11年を過ごしたともいえます。長いようで短い日々でした。この間、学生や大学に貢献しようと、精一杯努力したつもりではあります。

しかしながら、特にこの一年のコロナ禍の

中の学生たちの心情を思うと、切ない気持ちになります。学生の勉学の機会を失わせないように努めたとはいえ、その心情をくみ取りフォローすることまでできたかと思うと、自責の念に駆られます。力の及ばなかった点はどうぞご容赦いただければ幸いです。

最後に、今までお世話になった皆様にお礼を申し上げるとともに、九州歯科大学の発展を心からお祈り申し上げます。



引地 尚子

九州歯科大学  
歯学部口腔保健学科長  
歯学部口腔保健学科 教授

九州歯科大学への期待

九州歯科大学には平成22年10月から勤務させていただき、本年3月末で定年退職いたしました。10年余の期間、学生教育や大学運営に携わってきましたが、長年にわたる教職員の方々の多大なご助力に感謝申し上げます。

九州歯科大学は百年を超える歴史があり、多くの卒業生が歯科医療人として活躍しています。また、唯一の公立歯科大学という特徴もありますので、全国各地から受験生が

集まっています。このような状況のもと、九州歯科大学は着実に発展を遂げてきました。

近年、我が国においては、少子・高齢化の進行に加え、大学を取り巻く社会環境が大きく変化しています。九州歯科大学が今後の歯科医療人育成をリードしていく観点から、新しい時代に相応しい教育、研究、臨床および社会貢献に取り組んでいかれることを期待しています。



日高 勝美

九州歯科大学副学長  
歯学部口腔保健学科 教授

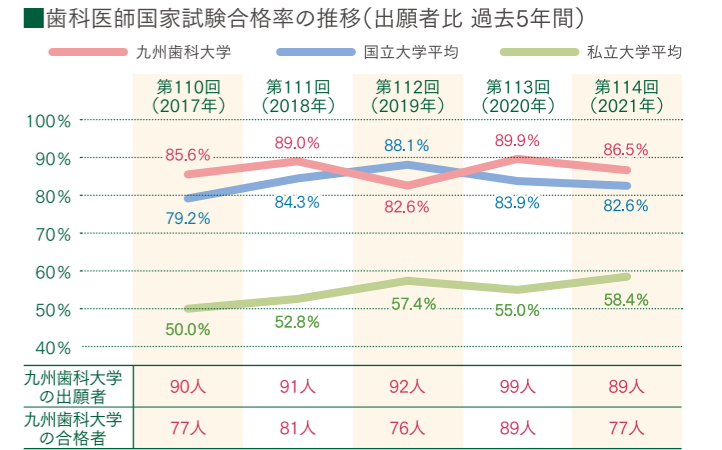
※役職については、令和3年3月31日退職時の役職を表記しています。

大学からのお知らせ

歯科医師国家試験合格率の推移

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づき「临床上必要な歯科医学及び口腔衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能」について、一定の基準を満たしているかどうかを確認するもので、合格すると歯科医師免許が与えられ歯科医師としての第一歩を踏み出すことができます。少子高齢化に伴い、有病高齢者に対する他職種と連携した医療提供など、歯科医師に求められる能力(コンピテンス)の変化に応じて難易度の高い問題が出題されるようになり、ここ数年の合格基準は大変厳しいものになっています。

右のグラフに示すように、最近5年間の新卒出願者数に対する合格率は、私立大学の平均では60%未満が続いており、国立大学でも2017年は80%に届きませんでした。その中で、九州歯科大学は、この5年間一度も80%を下回ったことはなく、2019年を除いて国立大学の合格率を常に上回る成績を収めています。



注:厚生労働省の報道発表資料による「学校別合格者状況」においては、「合格率」は受験者数に対する合格者数の割合で示されています。本学では、出願者数と受験者数は同一ですが、大学によっては出願者数と実際に受験した人数に大きな乖離がありますので、ここでは、大学教育の実態をより正確に反映させるため、新規卒業生の出願者数に対する合格者数の割合を「合格率」として算出しております。

2021年度の本学入学試験状況

一般選抜における志願倍率は、歯学科では5.5倍で前年度の2.5倍を上回り、口腔保健学科では、2.5倍と昨年度と同様でした。経年変化を見ても、年度により変動はあるものの歯学科では5倍程度、口腔保健学科では2.5倍程度で推移しています。

新たに実施した学校推薦型選抜については、両学科とも競争率は歯学科で3.0倍、口腔保健学科で2.7倍でした。

また、志願者の女性の占める割合は、歯学科全体で43.3%、口腔保健学科全体で95.5%でした。経年変化を見ても歯学科は40%台半ばで推移している一方で、口腔保健学科は95%以上と高い割合を占めています。近年、口腔保健学科では男性の志願者も出てきており、その中には合格者(入学者)もいます(2019年、2021年各1名)。

このように、今年度も本学へ多くの受験生が志願しており、今後とも大学本館や附属病院における充実した実習や高い国家試験合格率など本学の魅力や強みをアピールするなど受験生に対する入試広報活動を一層強化し、志願者の確保に努めてまいります。

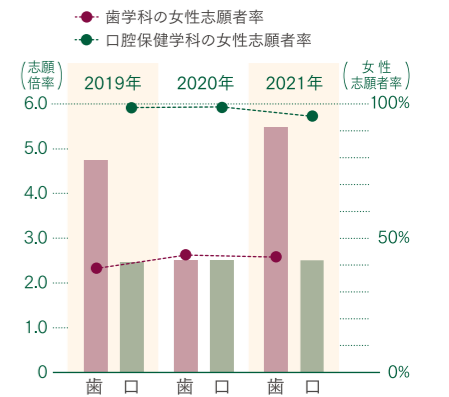
■2021年度入試結果

学部/学科	募集定員	出願者数		受験者数		当初合格者数		志願倍率		受験倍率	
		A	B	C	D	B/A	C/A				
歯学部	歯学科	一般選抜(前期)	75	409	357	75	5.5	4.8			
		総合型選抜	15	93	93	15	6.2	6.2			
		学校推薦型選抜	5	15	15	5	3.0	3.0			
		合計( )は女性数	95	517(224)	465	95(44)	5.4	4.9			
口腔保健学科	口腔保健学科	一般選抜(前期)	19	48	43	21	2.5	2.3			
		総合型選抜	3	10	10	2	3.3	3.3			
		学校推薦型選抜	3	8	8	2	2.7	2.7			
		合計( )は女性数	25	66(63)	61	25(24)	2.6	2.4			

■歯学部志願者に占める女性の割合

年	学科	出願者数			当初合格者数		
		全体	女性	率(%)	全体	女性	率(%)
2021	歯	517	224	43.3	95	44	46.3
	口	66	63	95.5	25	24	96.0
2020	歯	326	143	43.9	95	39	41.1
	口	65	64	98.5	25	25	100
2019	歯	438	170	38.8	95	45	47.4
	口	61	60	98.4	25	24	96.0
2018	歯	500	224	44.8	95	44	46.3
	口	81	80	98.8	25	25	100
2017	歯	511	229	44.8	95	52	54.7
	口	69	68	98.6	25	25	100

■歯学部一般選抜志願倍率と女性志願者率の推移(過去3年間)



コラム No.02  
おくちのお話

「あなたのおくち、あいてませんか？」

マスクが生活の一部となり、いつの間にか口がポカンと開いたままになっていませんか？

理想的な呼吸とは、口を閉じて鼻で呼吸をしている状態です。いつも口が開いている状態だと、いつの間にか口で呼吸することが習慣化し、口の中が乾燥したり、唾液が口の中をきれいにする自浄作用も低下したりするので、むし歯や歯周病になりやすくなります。また、マスクを外す食事の際も、口が開いたままだとくちやくちやと音がしたり、飛沫が飛んだりします。

長期にわたって口が開いていると歯並びにも影響し、上の前歯が唇側に出たり「上顎前突（じょうがくぜんとつ）」、奥歯では咬んでいるのに上下の前歯の間に隙間があいたり「開咬（かいこう）」することもあります。逆に、すでに歯並びが悪く前歯が出ているために口が閉じられない場合もあります。その場合は治療が必要になることがあるので、一度歯医者さんにご相談ください。

いつも、口を閉じることを心がけてみてください。口の中が唾液で潤い、お口の健康も咬み合わせも保つことができますよ。



九州歯科大学歯学部顎口腔機能矯正学分野  
病院講師 黒石 加代子

ご報告

九州歯科大学基金のお知らせ

九州歯科大学基金へ多大な貢献をいただきましたことをご報告します。

本学の「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する」などをはじめとする、数々の教育研究目標を達成するために、「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業を現在展開しております。

その事業を支援する目的として、九州歯科大学基金を創設しており、令和3年3月31日までに、皆様からいただきました寄附の申し込み状況は、法人・団体様等より112件で寄附額7,733,428円、個人様より169件で寄附額5,050,020円となりました。日頃より温かいご支援をいただき、心より御礼申し上げますとともに、ここにご報告いたします。

本基金による「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業では、具体的に右記のような取り組みを行ってまいります。

取り組み

1. グローバルな視野をもった医療人育成支援  
海外の大学との連携強化および国際交流活動の推進、学生国際交流活動推進プログラムの運用支援
2. 学生・大学院生・留学生の奨学金の確保  
大学における奨学金の効率的かつ実効的な運用支援。大学が主体的に運営するための基金の確保
3. 大学主導のリカレント教育の強化  
あらたな医療技術普及活動・歯科医療人再教育活動の推進支援

ご寄附に関する窓口

公立大学法人 九州歯科大学 九州歯科大学基金事務局(担当:総務課)  
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1  
TEL:093-582-1131(内線7211) FAX:093-582-6000

詳しくは、HPをご確認ください。



編集後記

広報誌Platys2号をお読みいただきありがとうございます。今回の特集である「大学院の担う役割」では、インタビューを行ってくださった河本君と加藤君は学生目線で知りたいことを考えてくれて、有難く思いました。また、本学学生さんの歳時行事である卒業式、入学式、そして登院式等の式典も安全に配慮し、かつ規模を考慮して実施できました。コロナ禍ゆえに式典にご参加いただけなかった保護者の皆さまに、その雰囲気や様子で少しでもお届けすることができればうれしく思います。最後に、ご寄稿いただきました執筆者の皆さまに御礼申し上げます。

九州歯科大学 副学長 木尾 哲朗

【表紙写真について】

創立106年の歴史と伝統を持つ九州歯科大学は1999年、本学附属病院を新たに竣工いたしました。表紙は附属病院内のロビーの写真です。本建物は最先端の教育・医療設備による学習環境を整え、2階から7階までの各階で診療や手術などを行い、8階は入院が必要な患者様のための病棟となっております。未来の歯科医療人を目指し、学生が教員からの指導を受け登院実習を行っています。

九州歯科大学広報誌「Platys [プラティス]」  
へのご意見・ご感想をお待ちしています。

✉ e-mail:kikaku@kyu-dent.ac.jp

本誌についてのご意見・ご感想をメールにてお寄せください。いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

九州歯科大学の情報は、  
Web上でも  
ご確認ください。



大学HP



大学案内  
パンフレット

